

■今月の特選句

2017年7月

備とて水鉄砲と輪護謨（わごむ）銃

原田 曄

国民に向けて安倍総理が十分な備えをと談話を発表している。日本は核の傘の中においてアメリカの子分。そこでこの提案となった。

蕎麦なれば加計森もよし梅雨に入る

高橋きのこ

言葉遊びですな。「よし」を、逆に「敬遠」にして「蕎麦だとして加計森敬遠梅雨深し」とか、「長梅雨や加計森依然ごたごたし」なんていかが。

一張羅から一張羅更衣

小川鈍太

「更衣所要時間の新記録」という奴ですね。「裏返すだけで完成更衣」。これは横着版。究極のシンプルライフは、「更衣一切不要ヌーディスト」。

打たれまい蠅の止まりし蠅叩き

氏家頼一

この句は、「蠅叩き」を蠅の立場で揶揄したもので、身近に上手く題材を得たね。ボクシングには、「クリンチ」という相手に抱き着く戦法がある。

寄せ植えに揺れる役目の小判草

山本 賜

それぞれに役どころを得てこそ、安定の世となる。狗尾草は猫のお相手。青スキは誰彼問わず斬りまくる。蔦は絡みつくのがお仕事。

手を洗ふしぐさや蠅のきれい好き

日根野聖子

一茶の句に「やれ打つな蠅が手をする足をする」がある。この句には、「蠅は汚いもの」という観念を覆した発想の自由がある。これぞ滑稽俳句のコツ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

大阪のおかんは時に青蜥蜴

・・・ときどき覗きすぐ居なくなる

下嶋四万歩

何を談合真夜中の熱帯魚

・・・この水槽を拭け出せまいか

稲葉純子

徘徊の軌跡光らせなめくぢり

・・・全身使い自分史書くか

本門明男

竹皮を脱ぐそこまでよそこまでよ

・・・作者は「脱ぐ」に反応しすぎ

加川すすむ

アイス棒卒塔婆(そとうば)にして蟻葬る

・・・小さな墓に優しさ溢れ

桑田愛子

ペディキュアの素足なにかを知ってゐる

・・・そんな語りで始まるドラマ

小林英昭

棕櫚の花食べられさうな色をして

・・・食べたものではないと思うが

佐野萬里子

春泥に噛みつかれをり新車の輪
・・・車庫に戻れば洗う楽しみ

田中早苗

「プシュン」梅雨時のビールです
・・・年がら年中プシュンと言うも

鈴木和枝

デパ地下の試食の締めには新茶かな
・・・夏は冷房効いてて優雅□

寿命秀次

夏布団いつの間にやら蟹挟み
・・・蹴られた挙句身動きできず

都吐夢

受持ちはベースと決めて牛蛙
・・・ほかのパートは似合わぬからに

西をさむ

群れの中右総代はどの目高
・・・みな胸を張りアピールするも

花岡直樹

■今月の滑稽句

- | | |
|---|-------------------------|
| 【佳作】 蟻地獄年中追われる火の車
六月や値上げの波が押し寄せる
イケ面の尻ごみをする油虫 | 青木輝子
青木輝子
青木輝子 |
| 夏日浴ぶ州浜の岩に亀親子
【佳作】 手入れせし庭にひとやま春落葉
切岸の連らなりみたる青岬 | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| スキンヘッド未だ光らず花粉症
【佳作】 昼寝からそのまま家人就寝す
蠹蜥蜴蝙蝠蛇虻 | 赤瀬川至安
赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 初夏ルルル市民ランナー脚走ル
乙222カルガモ親子まちをゆく
【佳作】 インド知らぬインド孔雀や夏の雨 | 荒井良明
荒井良明
荒井良明 |
| 【佳作】 夜の顔少し遠ざけサングラス
向日葵は日輪さんの申し子よ
かき氷こぼして今の暮らし向き | 井口夏子
井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 三保の浜天女羽衣を脱ぐ迂闊
母の日や子ばなれできぬ慈母観音 | 池田亮二
池田亮二 |
| 紫陽花やホームの父のとんちんかん
【佳作】 百までは生きると豪語生身魂
百歳を待たず父逝く夏の露 | 石塚柚彩
石塚柚彩
石塚柚彩 |
| 退院や娑婆新たなり夏の風
【佳作】 雷神様に成りたるここちエムアールアイ
夏の男腎臓痛めし前立腺 | 泉 宗鶴
泉 宗鶴
泉 宗鶴 |
| 新茶飲む減塩減酒減砂糖
かなづちの金魚が溺死してをりぬ
【佳作】 この川に川止は無し三途川 | 伊藤浩睦
伊藤浩睦
伊藤浩睦 |

	名は体を態は育ちか金亀子	伊藤洋二
【佳作】	子子に生まれてもその生命かな 人の道如何在るべきや道をしえ	伊藤洋二 伊藤洋二
	まな板にピーマン種を汚しけり 玄関に愛あるかたち熱帯魚	稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	一日をあつと言ふ間の夕立かな	稲沢進一
【佳作】	所有権は雑草にあり夏の庭 昇天や蟬の殻めくマイナンバー	稲葉純子 稲葉純子
	気付かずに新茶飲む夫もつたいなし 回覧板新茶出されて長話	井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	子燕の糞的確に巢の外へ	井野ひろみ
	心太冷麺我慢のダイエット	上山美穂
【佳作】	夜の風にはつくしよんてふ薄暑かな 夏の夜の自転車ひとりごと連れて	上山美穂 上山美穂
	落書の相合傘や梅雨の寺	氏家頼一
【佳作】	サングラス額にかけてカメラマン	氏家頼一
	威張りをるなり省エネの扇風機 菓子パンの渦巻きまいまいに似ています	梅岡菊子 梅岡菊子
【佳作】	ほうたる登場真闇のステージに	梅岡菊子
	梅雨の傘色とりどりのカーニバル	梅野光子
【佳作】	仏前の切子に光りサクランボ 花菖蒲色のとりどり天仰ぐ	梅野光子 梅野光子

- | | |
|--|----------------------|
| 老人のころころ笑ふ更衣
めくるめく過去もありたる心太 | 越前春生
越前春生
越前春生 |
| 【佳作】 尼僧とて寺をかけもつ青嵐 | |
| 【佳作】 鳥交る声の最中を書の稽古
猫の子の百面相にニャーと鳴き
さみだれを「失樂園」の切手かな | 太田史彩
太田史彩
太田史彩 |
| 【佳作】 梅雨晴れに腐る心を干しており
心太つると箸を滑り落ち
ごきぶりへ乱れ打ちする妻乱れ | 岡野 満
岡野 満
岡野 満 |
| 【佳作】 頭以外悪い所無し風薫る
梅雨の入り勿体ぶって小出しする | 小川鈍太
小川鈍太 |
| 【佳作】 狂ひ咲く自由も欲しや時計草
釣堀や虜の魚の舌も肥え | 加川すすむ
加川すすむ |
| 【佳作】 梅雨入を一斉連絡する蛙
田水配る社員配属するごとく
子を抱き螢の村へ帰るかな | 加藤澄子
加藤澄子
加藤澄子 |
| 江の電に生れしばかりの蚊の入り来
朗朗と老鶯の音に片思ひ | 川島智子
川島智子
川島智子 |
| 【佳作】 暴風の予報に急ぎ牡丹剪る | |
| 風向きがこちらに変わりしゃぼん玉
海と空かき混ぜ泳ぐ手足かな | 久我正明
久我正明
久我正明 |
| 【佳作】 真ん中の破れる恋の夏帽子 | |
| 【佳作】 堆積の糞も太りて燕の子
巻き舌のアールルルル夏燕
点と線時の日に見る時刻表 | 工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子 |

- | | |
|--|----------------------|
| 【佳作】 身ぐるみを剥がされ粽(ちまき)白い肌
断捨離もせずに楽しむ大夕焼 | 桑田愛子
桑田愛子 |
| 寝返りに特に意のなき籠枕 | 小林英昭 |
| 【佳作】 いちやつけるふたりに蚶(ぶよ)の嫉妬心 | 小林英昭 |
| 落梅や車に轆かれ音のみ泣く | 佐野萬里子 |
| 【佳作】 青田中モザイク画なす麦の秋 | 佐野萬里子 |
| 【佳作】 大軀(く)して蚊の鳴くやうな負け角力
玉葱に泣かされてゐる武骨顔 | 下嶋四万歩
下嶋四万歩 |
| 燥(はしゃ)ぎ過ぎ矢車尾取る鯉幟 | 壽命秀次 |
| 【佳作】 天袋に叩き起こすや扇風機 | 壽命秀次 |
| 振り仮名を付けてもみたき幟立つ | 白井道義 |
| 【佳作】 就活のいでたちは黒若葉吹く
メドレーで五冠達成鯉幟 | 白井道義
白井道義 |
| 【佳作】 二の腕に負けぬ胡瓜や売れ残る
亀の子の犬かきデビュー赤い橋 | 鈴鹿洋子
鈴鹿洋子 |
| 【佳作】 ネギ坊主と直立いろんな空みつけた
右向け右我慢の糸みつけた | 鈴木和枝
鈴木和枝 |
| 網戸して技能向上テキスト選び | 鈴木哲也 |
| 【佳作】 そうめんにサクッとあげたる天プラを
風薫るコソコソ進み無事終る | 鈴木哲也
鈴木哲也 |
| 【佳作】 走り梅雨前線今日も居座つて
落雷や自販機コイン食つたまま
赤い糸プツリ切れて破れ傘 | 高田敏男
高田敏男
高田敏男 |
| 短夜や百才想定老後資金 | 高橋きのこ |
| 【佳作】 町民の七割老人竹の秋 | 高橋きのこ |

	朝顔の双葉を通り過ぎるのか	田中 勇
【佳作】	かたばみや片脚立ちを始めたる 勘違ひの質問されたる夏初め	田中 勇 田中 勇
	煩はしき蚯蚓蜥蜴に蝌蚪の文字	田中早苗
【佳作】	こんなにも居たかよ雀麦の秋	田中早苗
	鯛の目に睨まれてゐる活き作り あの涙ハンカチだけが知つてゐる	田村米生 田村米生
【佳作】	誤魔化しのできぬ物出る土用干	田村米生
【佳作】	庭仕事サボった果てのドクダミよ また明日曲がりし角の薔薇ばらよ 蚊遣り豚煙で太る我もかな	月城美紀 月城美紀 月城美紀
	木下闇なにか蠢(うごめ)くものが居る	津田このみ
【佳作】	老鶯に負けずカラオケ艶を増す 生きること全てをかけし熱中症	津田このみ 津田このみ
【佳作】	大汗の部下に小言の腰折られ 宿六の行き場無くして端居かな	都吐夢 都吐夢
	竹夫人抱いて淋しくないは嘘	飛田正勝
【佳作】	父の日や母より父へお裾分け 学校へ行く丈で良し五月尽	飛田正勝 飛田正勝
【佳作】	浴衣着て下駄を鳴らしてつまずいて 腹を見て悩むふりしてビール飲み お出かけにシミの上にも日焼け止め	中井 勇 中井 勇 中井 勇
【佳作】	吾もごみの一つや梅雨のごみ屋敷 辞書ひらく薔薇といふ字をまた忘れ 竹夫人ほんとの妻はそつちのけ	新島里子 新島里子 新島里子

雨蛙葉っぱの裏で雨やどり 【佳作】絶対に口を割らぬと藁	西をさむ 西をさむ
ホトギス君も頭で雨感じ *テッペンハゲタカ 梅雨寒にも怖めず臆せずビール飲み	花岡直樹 花岡直樹
つまみ喰ひしつつ調理や白子干 【佳作】ねこ路地を子ねこ啣へてわたる猫	原田 曄 原田 曄
余り苗隅にまとめて養護院 【佳作】ぶつかって互ひに謝して芥子坊主 閻魔詣恐い貌には平伏して	久松久子 久松久子 久松久子
ゆつくりが自分流なりかたつむり 【佳作】きりりと白し鮎の尾の化粧塩	日根野聖子 日根野聖子
マスクして年齢不詳となりにけり 長閑けしやルンバと遊ぶマルチーズ 【佳作】声ひそめ藤の花房垂るるなり	廣田弘子 廣田弘子 廣田弘子
上京の思惑ちがひ帰省の貌 放水路蟹溺れつつ爪ひろぐ 【佳作】反論の昂り呷る冷し酒	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
風薫る五体緩みて笑う足 五月雨や濡れるも悔し傘は無し 【佳作】孫来るゴールデンウイーク引き連れて	細川岩男 細川岩男 細川岩男
【佳作】麦秋をどどん食べるコンバイン ででむしや来し方思ひ動かざる	本門明男 本門明男
【佳作】花菖蒲社歌のわきたつ老舗宿 梅雨晴や木登りの猫爪をとぐ お駄賃は紫陽花の花庭掃除	松井寿子 松井寿子 松井寿子
【佳作】幼女仕切る人形一家の更衣 梅雨の堂よりおしゃべりなバイオリン 打水に蟻の一族阿鼻叫喚	松井まさし 松井まさし 松井まさし

昨日今日座禅してます慕	南とんぼ
【佳作】酒絡むさわぎの芯の赤いバラ	南とんぼ
濃紫陽花罪になる嘘ならぬ嘘	南とんぼ
禿(ち)ぶ石鹼集めて使ふ昭和の日	椋本望生
てんとむしらしきなりしてこんちくしやう	椋本望生
【佳作】心電図薄暑の胸に吸ひ付きぬ	椋本望生
羽抜鶏十メートルを疾走す	村松道夫
【佳作】ケロケロと尻尾失ふ蝌蚪の国	村松道夫
金魚藻に足をとられて目高かな	村松道夫
万緑や風のハミングるるるる	百千草
【佳作】散りてすぐ群れとなりたる舟虫よ	百千草
木下闇ピエロの笑みの無表情	百千草
【佳作】枇杷の実を隠しておりぬ派手な紙	森岡香代子
待たせたねさあでかけよう麦わら帽	森岡香代子
神様をお招きしたし蛍袋	森岡香代子
【佳作】香水で名を思ひ出すてふ危険	八木 健
嫌煙に肩身のせまき岩煙草	八木 健
来客に出し忘れてる茗荷汁	八木 健
越中に俱利伽羅紋々青嵐	八洲忙閑
明滅の螢は我にウインクして	八洲忙閑
【佳作】海の日や海の中には母おはす	八洲忙閑
姫鱒や大海知らず適齢期	八塚一青
【佳作】身の程を知りすぎて蛾は夜に舞う	八塚一青
絶壁に家を構える岩燕	八塚一青
【佳作】腹三分七分は文化粽食ふ	柳 紅生
出る杭の頼みの綱の鯉のぼり	柳 紅生
川柳の詠める定年暑気払ひ	柳 紅生
ダービーの収支問はれて無言劇	柳村光寛
【佳作】籐椅子の元に戻らぬ凹みかな	柳村光寛
絵馬の文字梅雨に打たれて失せにけり	柳村光寛
雨男日日胡瓜大きくす	山下正純
青鷺の飛びて一鳴き風立ちぬ	山下正純
【佳作】夏草の切つても切つてもとかげの尾	山下正純
大胆なメイクが似合ふ祭髪	山本 賜
【佳作】金魚釣り子が父にするアドバイス	山本 賜

答弁は真贋つかず油照
【佳作】 右向いて左見てゐるサングラス
娑婆に出て後悔しきり地虫どち

横山喜三郎
横山喜三郎
横山喜三郎

鶯の三声と啼かぬ気弱かな
鬘鑠(かくしゃく)の婆には喜雨のほまち畑
【佳作】 背くなと大地に雷の突き刺さる

吉原瑞雲
吉原瑞雲
吉原瑞雲